

平成29年1月31日
総合政策局情報政策課
交通経済統計調査室

トラック輸送情報（平成28年11月分）

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,783,323トンで、前月と比べ総輸送量が約284千トン増加したため、前月比105.2%（季節調整済み103.0%）となり、前年同月との比較では、約394千トン増加したため、前年同月比107.3%の実績であった。

なお、平均稼働日数は23.4日で、前月と比べ0.7日減少し、前年同月との比較では、0.9日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、247,151トンで、前月と比べ約19千トン増加したため、前月比108.3%となり、前年同月との比較では、約8千トン増加したため、前年同月比103.2%の実績であった。

102.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

(2) 宅配便の概況

調査対象14社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約352,144千個で、前月と比べ約23,740千個増加したため、前月比107.2%（季節調整済み99.2%）となり、前年同月との比較では、約31,271千個増加したため、前年同月比109.7%の実績であった。

（図2-1、図2-2参照）

(3) 品目別及び地域別輸送状況（表1参照）

調査対象25社（24社及び品目別・地域別輸送状況回答1社）は、前月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、「機械」、「食料工業品」及び「日用品」について、工場・生産地からの貨物増が主な増加要因となっている。また、季節的需要増が「機械」で見られた。地域別では、「東京」、「関東」、「北陸信越」、「愛知」、「近畿」及び「中国」で貨物増となっている。

前年同月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、全ての品目について、工場・生産地からの貨物増が主な増加要因となっている。また、倉庫から出る貨物増が「金属製品」、「機械」及び「食料工業品」で見られた。地域別では「関東地方」、「北陸信越」、「中部地方」、「大阪」及び「兵庫」で貨物増となっている。

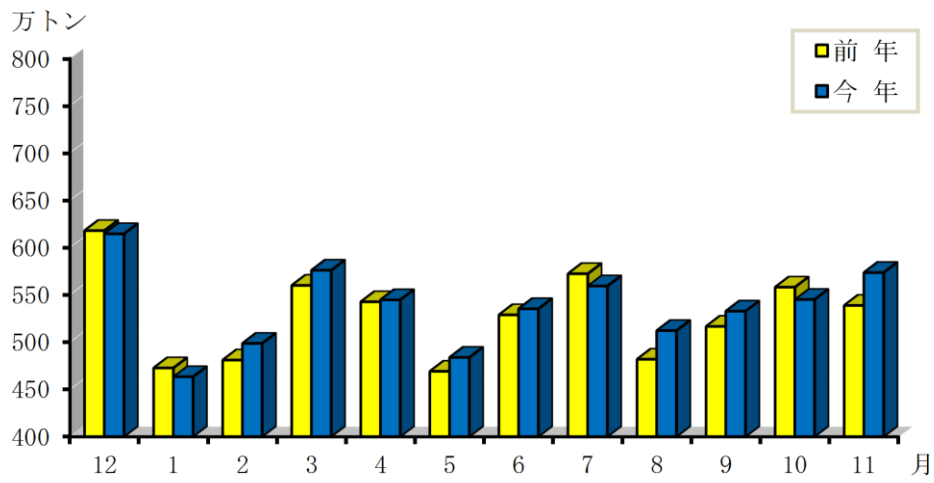
2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況（表2参照）

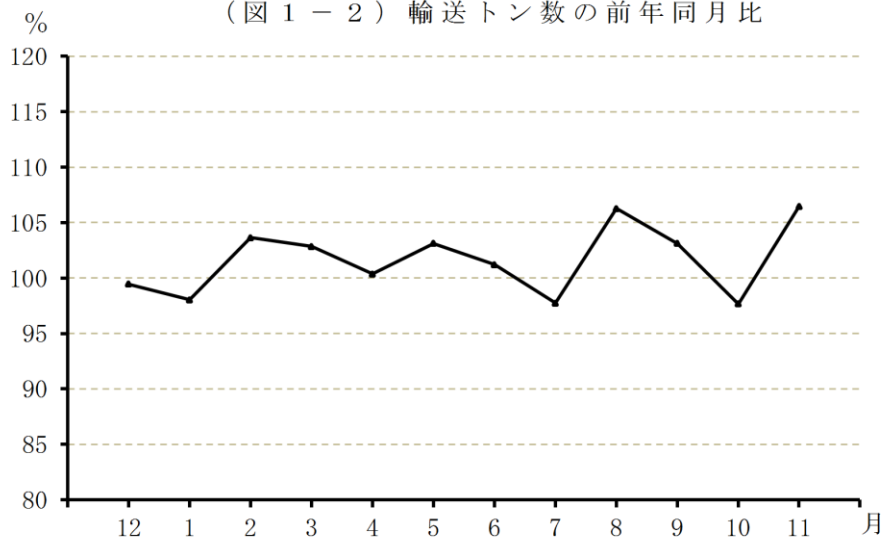
全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者794社／調査対象事業者数1,009社）の輸送量は、前月比100.8%、前年同月比102.5%であった。

問い合わせ先：総合政策局情報政策課交通経済統計調査室
電話：03-5253-8111（代表）
03-5253-8346（直通）
FAX：03-5253-1567

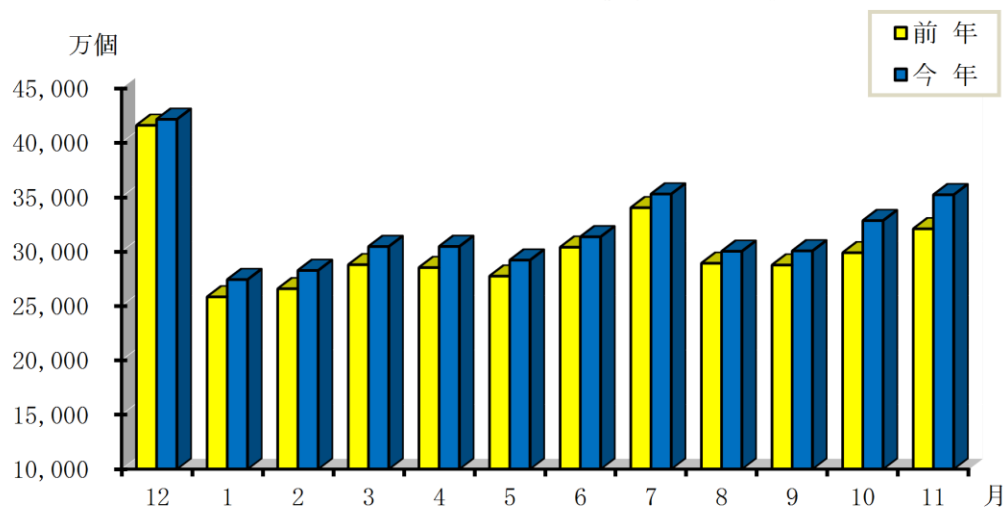
（図 1 - 1）輸送トン数の推移



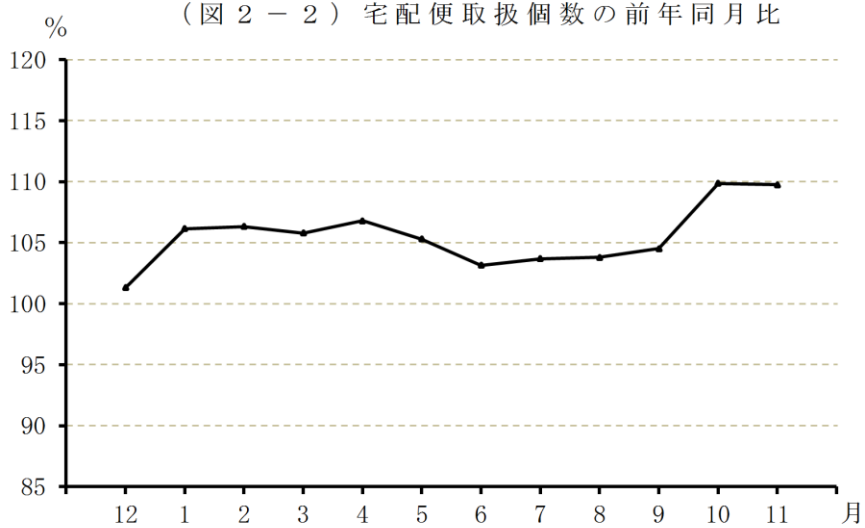
（図 1 - 2）輸送トン数の前年同月比



(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品		4	10	3	1	
	金属製品		4	16	1		
	機 械		7	11	2		東京、関東、北陸信越、愛知 4, 8
	化学工業品		4	15	3		
	繊維工業品		2	17	2		
	食料工業品	1	8	9	1	その他の食料工業品	関東、近畿 4
	日 用 品		8	11	2		中国 4
	そ の 他		8	10	2		4
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		5	10	3		4
	金属製品	1	7	12	1		東京、関東、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫 4, 7
	機 械	1	7	11	1		関東地方、愛知、大阪 4, 7
	化学工業品	1	6	13	2		神奈川、関東、中部地方 4
	繊維工業品	1	4	14	2		神奈川、関東 4
	食料工業品	1	7	11		その他の食料工業品	関東地方、北陸信越 4, 7
	日 用 品	1	6	12	2		神奈川、関東 4
	そ の 他	1	7	10	2	その他(百貨店配送品)	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.5 %	105.8 %	102.1 %	104.7 %	96.1 %	100.8 %	101.5 %	103.0 %	103.2 %	100.4 %	102.8 %	
前 月 比	100.8 %	98.3 %	100.0 %	101.3 %	95.1 %	105.6 %	100.3 %	101.6 %	104.0 %	105.8 %	102.0 %	

○本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 98.3%、対前年同月比 105.8%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「その他の農産品」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」及び「その他の石油製品」が、また「機械」、「揮発油」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物減により「木材」が、季節的需要減により「水産品」、「木材」が、また、「紙・パルプ」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 100.0%、対前年同月比 102.1%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の石油製品」が、また、「木材」、「工業用非金属鉱物」、「セメント」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」が、また、「穀物」、「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 101.3%、対前年同月比 104.7%であった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 95.1%、対前年同月比 96.1%であった。品目別では、「金属製品」、「機械」、「その他の窯業品」、「揮発油」及び「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 105.6%、対前年同月比 100.8%であった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 100.3%、対前年同月比 101.5%であった。品目別では、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送状況については、対前月比 101.6%、対前年同月比 103.0%であった。品目別では、季節的需要増により「日用品」、「その他の製造工業品」が、また、「機械」、「紙・パルプ」及び「繊維工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響による貨物減により「鉄鋼」、「セメント」が、また、「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月、及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 104.0%、対前年同月比 103.2%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物増により「機械」、「日用品」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の石油製品」及び「食料工業品」が、また、「その他の窯業品」、「動植物性飼・肥料」及び「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 105.8%、対前年同月比 100.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「機械」が、工場・生産地からの貨物増により「機械」、「その他の石油製品」が、季節的需要増により「その他の農産品」が、また、「木材」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 102.0%、対前年同月比 102.8%であった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
1. 穀物	増	1						2		1		4
	減	1	4	1	1			3		1		11
2. 野菜・果物	増	7							7	6		20
	減	5	3	1				1		5		15
3. その他の農産品	増	6						1	1	2	1	11
	減	1						1				2
4. 畜産品	増									1		1
	減											
5. 水産品	増		1					1	1			3
	減	4	1							1		6
6. 木材	増		3		1			2	1	4		11
	減	4	1		2			2		1	1	11
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	2										2
	減	1	1					1				3
9. 金属鉱物	増				1							1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	4		1		1		2	3	3		14
	減	8	1					3				12
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2			1			1	1		6
	減	2		1				2				5
12. 鉄鋼	増		2	1	2				1	1		7
	減		1		1			2	1	1	1	7
13. 非鉄金属	増						1					1
	減				1							1
14. 金属製品	増	1	1		2	1	1		1	2		9
	減					1	2	4		1		8
15. 機械	増	2	1		2		2	6	3	5	1	22
	減		2			1				1		4
16. セメント	増	3	2		1				1	8		15
	減	4			1			2		1		8
17. その他の窯業品	増	1			2	1	1		2	2		9
	減	1	1							1		3

運輸局		品目	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18.	揮発油	増	2			2			1	1			6
		減											
19.	その他の石油製品	増	5	3		2	1		2	2	3		18
		減	1			1			2				4
20.	コークス・ その他の石炭製品	増									1		1
		減											
21.	化学薬品	増		1					1		1		3
		減											
22.	化学肥料	増	1	1							2		4
		減								1	1		2
23.	その他の化学工業品	増	1			3		1	1				6
		減											
24.	紙・パルプ	増		1		1	1		2	1		1	7
		減	2	1				1		1	1		6
25.	繊維工業品	増		2					2	1			5
		減		1									1
26.	食料工業品	増	1	2	1	2		4	4	4	2	1	21
		減	1	5		3		2	5	1	3		20
27.	日用品	増		2					4	4		1	11
		減				1		1	2		1	1	6
28.	その他の製造工業品	増		1				1	5				7
		減				1							1
29.	金属くず	増									1		1
		減										1	1
30.	その他のくずもの	増											
		減								1			1
31.	動植物性飼・肥料	増	1							2	1		4
		減	3								1		4
32.	廃棄物	増	1	2					1	2	1		7
		減		2					1		2		5
33.	輸送用容器	増	1								1		2
		減											
34.	取り合せ品	増	1								1	1	3
		減										1	1
35.	その他	増	1	2	1		2	4	1		6		17
		減	1	1	1	1	1	3	6		2		16